

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570200992		
法人名	株式会社レナール		
事業所名	グループホームオアシスことしば		
所在地	山口県 宇部市 寿町 三丁目二番五号		
自己評価作成日	令和2年5月	評価結果市町受理日	令和2年11月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
聞き取り調査実施日	令和2年6月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

宇部市の中心部に位置している当グループホームは、宇部線琴芝駅から徒歩5分の所にあり、ご家族やご親戚、ボランティア様などの訪問していただきやすい環境です。複合施設の2階に位置しており、窓からは公園や電車が見え、季節の移り変わりや、子供たちが遊ぶ姿を見ることができます。また歩いて行ける場所に公園が2か所、交流のある保育園、福祉会館があり、季節の花々を見たり、保育園児とのふれあいに外出しています。特に保育園とは、七夕まつり、夏祭り、運動会、発表会、餅つきなどの行事に招待していただき、敬老の日は訪問してもらって交流を重ねています。日常では、食事作りや、配膳、片付け、洗濯など、これまでの経験や得意なことに力が発揮できるような支援をしています。自治会と災害時の一時避難所の覚書を交わして地域とのつながりを深めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣の保育園への利用者の訪問(運動会、七夕の会、夏祭り、発表会の総練習見学、お餅つきなど)や園児の来訪、地区ふれあいセンターの行事(ひな祭り)への参加、事業所(拠点合同含む)の行事に協力を得ている多くの地域のボランティアなどとの日常的な交流などを通して、利用者が活力と喜びのある生活を送れるよう支援しております。年1回、家族会を運営推進会議と併せて開催されたり、事業所だよりなどで利用者の様子を家族にわかりやすく伝えておられ、家族の協力を得て、教会の礼拝やつどいに参加されているなど、その人らしい生活を継続できるよう支援しております。協力医療機関による月1回の訪問診療や24時間オンコール体制、歯科の月1回の訪問診療、月2回の訪問看護師による健康観察、家族である皮膚科医の協力を得た皮膚トラブルへの対応など、医療や看護、家族との連携により、利用者の健康管理に努めておられ、利用者の機能低下や体調の変化に合わせた適切なケアに取り組んでおられます。職員は転倒防止などの安全に配慮されて、できるだけ外出の機会を増やされたり、日常的なレクリエーションで、利用者の楽しみづくりを支援され、利用者の明るい笑顔を引出しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)
58	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働いている (参考項目:12. 13)
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①その人らしくゆたかりと安心しての理念のもと、ユニットごとに具体的な目標を掲げ事業所内に掲示しています。利用者、職員来訪者がいつでも見ることができ、日々のケアの振り返りにしています。 ②理念はユニット内に掲示してあり、理念のもとに、ひとりひとりがその人らしく過ごせる為に、支援の在り方をスタッフ全員で模索しあい、実践につなげるようにしています。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念をつくり、事業所内に掲示している。利用者が自由におやつを食べられるように買物の支援や賞味期限の管理をする、その人の起床時間に合わせて朝食を提供する、フロアや居室、廊下などのソファで自由にくつろげるよう見守りをするなど、理念に沿って利用者のその人らしさを大切にしたいケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設周辺の散歩や、公園で、地域の方と挨拶を交わしています。地域の行事に参加したり、保育園と訪問しあい、交流を重ねて馴染みの関係になっており、お互いが触れ合いを楽しみにしています。	自治会に加入し、地区のふれあいセンターのひな祭りに利用者の作品(タペストリー)や人形を展示し、利用者や職員が参加して、地域の人と交流している。保育園児が事業所に来訪し、敬老の日の手づくりペンダントやペン立てのプレゼントを持参してお遊戯を披露したり、利用者が保育園の運動会や発表会の練習見学、夏祭り、餅つきなどに行き交流している。月1回のさざなみの会(紙芝居、クイズ、歌、手品、パネルシアター等)や、誕生日会にボランティア(八幡太鼓、道楽座、ウクレレ演奏、マンドリン演奏、宇部ふるさと民謡クラブ、長陽雅楽会、宇部太鼓、琴演奏など)が来訪している。法人他施設と合同でボランティア(八幡太鼓、バレエ団の子供、フラダンス、長州南蛮連)の協力を得て納涼祭を行い、自治会やふれあいセンターなどで参加を呼びかけている。利用者は、月2回の買い物や花見等の外出時や散歩時に近所の人と挨拶を交わし、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学、相談などは、随時受け入れを行っています。地域の学校法人と一緒に、女性の活躍応援事業に参加して施設見学や説明会を開催しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価項目ごとのねらいをガイド集で学び、全職員で自己評価に取り組んでいます。取り組むことで日々の介護を振り返ることができています。	管理者がカンファレンス時に評価の意義を説明し、職員はガイド集に目を通して考え方の指針やポイントを押さえるように努めている。自己評価は項目を分担して職員が2人1組で検討し、各ユニットの管理者2人がまとめている。職員は日頃のケアの振り返りと捉えている。前回の外部評価結果を基に目標達成計画を立て、内部研修の充実を図るため、職員にアンケートを行うなど、具体的な改善に取り組んでいる。	・全職員での自己評価の取り組み
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況の報告、職員の異動や活動の報告、事故報告、外部評価への取り組みなど意見をいただきながらサービスの向上に努めています。	会議は2ヶ月に1回開催し、同時に身体拘束適正化委員会を行っている。今年はコロナ禍の影響で1回、書面による報告としている。近況報告(利用者や職員の状況、行事報告)やヒアリング、事故報告などを行い、意見交換をしている。年1回(3月)家族会と一緒に開催している。会議録は毎回、運営推進会議メンバーや家族に送付し、事業所への理解を深めている。メンバーから地域のイベントの紹介を受け利用者と参加したり、保育園との情報交換をして園児との交流を深めるなど、運営推進会議を活かしてサービス向上に取り組んでいる。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営に関する疑問や、介護保険に関する家族からの相談には、市の担当者に電話で相談し、わかりやすく回答を頂いています。運営推進会議でも市の担当者に現状を伝え、介護情報の提供や共有をしています。	市担当者とは、運営推進会議時や直接出向いて情報交換や相談をして助言を得ているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センターは同一法人内にあり、研修情報の提供などを行い、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホーム内で身体拘束をしないケアについての指針を作り、知識、理解を深め実践に取り組んでいます。玄関の施錠については、利用者の安全のため家族の理解を得て実施しています。実施内容については身体拘束適正化委員会で報告、協議しています。	職員は、内部研修で身体拘束について学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。運営推進会議時に身体拘束適正化委員会を行い、利用者の見守りのため昼間に施錠する時や足元センサーマット、ブザーの使用などについて話し合っている。スピーチロックや行動制限など気になるところがある時には、その都度、管理者が指導や注意をしている。玄関は18時30分から翌9時30分は施錠しているが、利用者の行動を制限しないよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設全体の研修で「高齢者や障害者の虐待を防ぎましょう」のテーマで市職員の方を講師に招いて研修を行い学びを深めています。施設内で不適切な介護を行わないように情報を共有し、適切な介助方法をや対応を話し合っています。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	①現在、成年後見制度を利用されている方はいませんが、支援が必要となる方には情報提供ができるように知識を深め、資料も準備しています。②現在、利用されている利用者さまもおられるため、これからも理解を深めていく為の勉強に努めていきます。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、契約書を読みあいながら説明し、その都度不安や質問にお答えしています。改定の際は文章でご家族に通知し、運営推進会議や、訪問時に説明を行っています。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設け、施設内に掲示して受付体制を整えています。家族や利用者からの意見や要望は、訪問時やケアプランの説明時、運営推進会議等で伺い施設内で協議し反映できる体制を整えています。必要に応じて運営推進会議で報告しています。	契約時に、相談や苦情の受付体制や処理手続き、第三者委員などを利用者と家族に説明している。面会時や年1回の家族会参加時、電話、メール、ライン等で、家族からの意見や要望を聞いている。事業所だよりを年4回(定期)と何かあるとき(随時)に送ったり、家族会を運営推進会議と同日に行って、利用者の様子を伝え、意見や要望を出しやすいように工夫している。意見や苦情があれば、業務日誌に記録して職員間で共有している。運営推進会議で出た家族の意見を参考に、利用者の活動的な生活を支援するようケアプランに反映させたり、差入れの菓子や果物をスイカ割りやおやつづくりに活用しているなど、支援に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務やケアの改善やアイデアを職員が出し合い、管理者に伝えたり、ケア会議で意見を出し合って反映させています。代表者の意見が必要な時にはいつでも相談でき、その都度対応し反映されています。	管理者は、月1回のユニット会議や毎日の申し送りで職員の意見や提案を聞いている他、日常の業務の中でも意見や提案を出しやすいよう努めている。意見や提案は、月1回の法人の幹部会議で報告し検討をしている。夕方から落ち着いたくなる利用者のケアに取り組むため、職員の意見から職員の募集や勤務時間の組み換えを行ったり、ソファやプリンターなどの備品の買い替えを行うなど、意見や提案を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、資格取得などの個々の実績を把握し、給与に反映させています。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間4回の法人内の研修や介護福祉士会やグループホーム協会の研修に参加しています。また日常的に職員間で介護技術を教え合い向上に努めています。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。今年、市の開催する虐待防止研修やグループホーム協会の救命・応急手当研修、介護福祉士会の車いすのヒヤリハット、記録の取り方、アンガーマネジメント、エンドオブライフ・ケア研修に参加し、受講終了後は、研修報告書を提出し、内部研修で報告して職員間で共有している。法人(拠点施設)研修は、年4回、虐待防止、感染症防止(ノロウイルス)、災害時対応、事故症例対応について実施している。内部研修は、各ユニット毎にカンファレンス時に年7回、テーマ(身体拘束、避難訓練、看取り、緊急時対応、認知症の理解、評価の意義と取り組み等)に沿って、管理者が講師となって実施している。新人職員は、日々の業務の中で管理者や先輩職員から介護の知識や技術を学んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設がグループホーム協会に所属し、勉強会に参加しています。そこで県内の他施設との交流や情報交換を行っています。また市内グループホームの第三者委員として会議に参加して情報や意見を交換してサービスの向上に役立っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のこれまでの生活や家族の事など話しやすい事柄からゆっくりと伺い、不安や要望が自然に話せるような雰囲気作りを心がけています。傾聴し、受容することで安心感を持っていただけるようにしています。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困りごとや不安、要望などをゆっくりと伺い、不安が解消するように事例をあげてわかりやすく説明したり、対応をお話しています。またいつでも相談に応じることができることを伝えて信頼関係を築いています。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、ご本人の状況やご家族のご要望がグループホーム対応できるのかを見極め、他の支援も含め情報提供を行っています。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や片付け、おやつ作りや掃除や洗濯などお互いが感謝や、ねぎらいの言葉をかけ合いながらともに生活していく関係を築いています。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	苑での様子を報告し、必要品や嗜好品の購入をお願いするなど協力をしていただいています。面会時にはゆっくりと過ごして頂ける様にお茶をお出ししたり、職員が中に入って会話の橋渡しをして共に支えていく関係の構築に努めています。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの場所や人を職員が日頃の会話や記録、本人情報の共有により把握しています。毎日の生活の場面ごとに話題にしたり、ドライブなどで思い出の場所に行っています。	家族の面会や親戚の人、友人の来訪がある他、電話や手紙での交流を支援している。家族の協力を得て、法事への参加、墓参り、一時帰宅、外泊、教会の礼拝のつどいへの参加など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	利用者同士の関係が深まるように全体での 活動や外出などでの触れ合いや、他者の頑 張りを応援するなど声を掛け合っています。 食堂のソファで利用者同士が不安を相談 したり、慰めあう様子も日常的にみられ、支 えあう関係ができています。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了後も、電話でその後の 様子を伺うなど連絡を取って必要に応じて 相談に応じることができるようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	個別の会話や行動観察から思いや意向を 把握するように努めています。困難な方 には、表情やしぐさ、態度から意向に沿って いるか判断し検討しています。	入居時に基本情報シートやフェイスシートを 活用して、利用者や家族の思いや意向の把 握をしている。日々の関わり合いの中での利 用者の表情や言動を経過記録に記録し、利 用者一人ひとりの思いや意向の把握に努め、 申し送り簿やカンファレンス記録で共有して いる。把握が困難な場合は、カンファレンスで全 職員で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	これまでの暮らし方や、趣味や楽しみごと など本人や家族、ケアマネージャーから伺 い入居時に介護方針を立てて職員間で共有 して把握に努めています。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	経過記録や業務日誌に残し、職員間で共有 して現状の把握に努めています。体調の変 化や、認知症の進行などなどに対応して一 日の過ごし方も検討しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は3か月ごとにモニタリングし、現状に即しているかを検討し、6か月ごとに見直しをしています。ご本人の言動、要望、変化などをカンファレンスやその都度、職員で話し合い介護計画に反映させています。ご家族にはケアプラン説明時や訪問の際に要望をお聞きしてケアプランに反映させています。	利用者や家族の思いや要望を聞き、業務日誌に記録している主治医や訪問看護師の意見を参考にして、月に1回のカンファレンスで職員が話し合って介護計画を作成している。介護計画の短期目標を業務日誌に記載し、常に職員がケアをチェックできるよう工夫している。3か月に1回、管理者や利用者を担当している職員がモニタリングを行い、6か月毎に見直しをしている。利用者の状態や家族の要望に変化があった場合は、その都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や経過記録に状態の変化や、気づきを記録し、その都度ケアの見直しや実践をしています。申し送りノートや服薬変更表を活用して情報の共有をしています。大きな状態の変化には介護計画の見直しも行っています。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かした往診や、入院の回避、早期退院の支援に取り組んでいます。認知症や、身体機能の低下には福祉用具を適切に使用できる体制をとっています。系列の居宅介護支援事業所から施設情報をもったり、相談できる体制をとっています。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、自治会長、保育園の園長、地域のお世話役の方に運営推進会議の委員になっていただき、地域の行事や、公民館行事の案内や招待を受け参加しています。保育園とは相互に訪問して交流を深めています。施設には、ボランティアの訪問も多くあり、豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前からのかかりつけ医が継続出来るように支援しています。皮膚科、眼科等も同様にしています。事業所の医療機関の訪問診療を受け、夜間や緊急時などの対応にも備えています。</p>	<p>本人や家族の希望により協力医療機関をかかりつけ医とし、月1回訪問診療を受けている。緊急時や夜間、休日は24時間オンコール体制で対応している。歯科は月1回、訪問診療があり、家族である皮膚科医の協力を得て、不定期に乾燥肌対策や水虫治療の訪問診療がある。その他の科の受診は事業所が受診の支援をする他、家族の協力も得ている。診察結果は家族に電話で報告し、申し送りノートや業務日誌に記録して職員間で共有している。月2回訪問看護師による健康観察があり、状態に変化があれば協力医療機関と連携して適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	
32		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護師が月2回健康観察に訪問しています。状態の変化や異常があれば、その都度、報告や相談を行い、医療に連携しています。</p>		
33		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には本人に関わる情報を提供しています。入院された場合は、現在の状況などを面会・電話にて確認を行っています。</p>		
34	(14)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した際は、職員全体で話し合い、本人・家族には事業所で出来ること、対応など、説明しながら方針を共有し支援しています。</p>	<p>看取りに関する指針を基に、契約時に事業所のできる対応について家族に説明をしている。実際に重症化した場合は、早い段階から利用者や家族の意向を聞き、主治医や関係者との話し合って、支援の方針を決めて共有し、法人や協力医療機関等と連携して支援に取り組んでいる。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	利用者ひとりひとりの状態を把握し事故防止に努めています。事故が起きた時には、事故報告書を作成して対応を考え、職員間で共有して再発を防いでいます。緊急時の対応はマニュアルを作成し、ステーションに置いて常に見ることができるようになっています。	事例が生じた場合は、当日の担当者が、ヒヤリハット、事故報告書に原因や対応、今後の対応策を記録して管理者に提出している。月1回のカンファレンスで再度話し合い、個別の介護計画に反映して、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。外部研修で救命・応急手当や車いすのヒヤリハットについて受講し、法人研修で事故症例対応や緊急時の連絡対応の研修を行っているが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を全館で利用者と共に実施しています。災害時の緊急避難先として自治会と覚書を交わして協力体制を築いています。	年2回(内1回は消防署の協力を得て通報訓練)、拠点施設合同で、昼夜の火災を想定した通報、避難誘導、消火設備の操作方法、消火訓練を、業者の協力を得て、利用者も参加して実施している。拠点内研修で、非常災害時の対応や緊急連絡網の再確認を行っている。マニュアルがあり、避難訓練に参加していない職員は、月1回のカンファレンス時に学んでいる。運営推進会議で協議し、事業所を地域の人の一時避難場所として活用する覚書を交わすなど、地域との協力体制を築く取組をしている。	・地域との協力体制の構築にむけた取組の継続
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりの人格を尊重し、尊厳が守られるような接し方、言葉使いを心がけています。排泄や入浴の場面では、誇りやプライド・プライバシーを守るよう特に注意しています。	年1回、内部研修の認知症の理解のなかで、人格の尊重やプライバシーの確保について学び、職員は利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに取り組んでいる。気になるところは管理者が注意している。個人情報の取り扱いに留意し、守秘義務を遵守するよう取り組んでいる。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が希望を伝えやすいよう声かけ、傾聴を行っています。日頃から本人の希望、好み等把握し、生活の中で自己決定ができるよう働きかけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	会話を大切に、体調や希望・想い等に配慮しながら、その人らしく生活できるよう支援しています。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服装を選んで頂いています。季節、場面に合わせた選択が出来るよう、本人の意思を尊重しながら助言、支援をしています。好みの化粧品の購入や美容院など家族・出張美容師の協力で支援しています。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合わせたメニューや、月1回のお祝いメニューなど楽しみとなるように支援しています。暖かい汁物・ご飯は毎食グループホームで用意しています。週に1回の食事作りやおやつ作りでは、四季折々の食材・メニューで、買物や調理、盛り付けなどを一緒に行っています。毎日の、食事の配膳や片づけなど、それぞれ得意な事や出来ることを職員と一緒にを行っています。	法人からの配食を利用し、汁物とご飯は事業所でつくっている。月3回、昼食を利用者と職員と一緒に事業所で作り、利用者は買い物、調理、味見、盛り付け、テーブル拭き、配膳、後片付けなどできることを職員と一緒にしている。利用者と職員は、同じテーブルを囲んで同じものを食べ、会話をしながら楽しく食事をしている。季節の行事食(おせち料理、ちらしずし、柏餅、土用のうなぎ、七夕のソーメン)や弁当の日、毎月1日の赤飯、法人合同の誕生会での刺身、誕生日のケーキ、納涼祭(たこ焼き、焼き鳥、アイスクリーム、ノンアルコールビール等)、クリスマス会のケーキづくり、月1回のおやつづくり(かき氷、ピザ、ホットケーキ、桜餅、豆腐入りみたらし団子、フルーツパフェ、かき氷、スイートポテト、どら焼き、ワッフル、桜餅)、保存食(梅干し)づくり、外出の時や売店、訪問販売店(週1回)でのお菓子の購入、家族との外食など、食事が楽しみなものになるよう支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事の摂取量を記録し、その方の状態に合わせた形態で提供しています。施設の管理栄養士の立てた献立でバランスのとれた食事を提供しています。 ①低体重の方には高カロリーの栄養剤や、好きな食べ物を本人の望む時間に、家族の協力で補っています。 ②糖尿病や、脂質制限のある方には疾病に応じた食事を提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け・見守り・介助にて口腔ケアを行い、義歯使用の方は洗浄剤を使用し口腔内を清潔にしています。必要に応じて訪問歯科によりケアを受けています。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	声かけや誘導を行い、トイレでの排泄の自立に向けた支援を行っています。排泄パターン(排泄チェック表を活用)や排泄のサインを把握し支援しています。ひとりひとりに配慮した排泄用品を選択しています。	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握し、利用者にあった言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排便状況を把握・記録して、水分補給や体操などの運動で予防に取り組んでいます。自然な排便が難しい場合には、腹部マッサージや医師と相談して服薬により排便コントロールを行っています。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日には時間や湯温などの好みにも配慮して、ゆっくりと入浴が楽しめるようにしています。体調など状況に合わせてシャワー浴、清拭、足浴などで対応しています。	日曜と水曜日を除いた毎日、10時から15時まで、湯加減、順番など、利用者の希望に合わせて入浴できる。入浴剤の利用、個人用の化粧品やオイルの利用、セラミドのかかり湯、手すりを利用したスクワット、職員との会話等、利用者一人ひとりがゆったりとくつろいだ入浴を楽しめるように支援している。入浴したくない人には、無理強いしないで入浴時間の変更や職員の交代、言葉かけの工夫をしている。利用者の状態に合わせて、清拭や足浴、下半身シャワー、シャワー浴をなど個々に応じた支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを整える為、活動に参加してもらう等支援しています。その日の体調に合わせて個別に休息がとれるように支援しています。眠れない利用者については、原因を見極めて生活リズムを見直したり医師と相談し薬剤の調整を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの指示、処方箋・薬の内容など、ここの処方内容を把握し、服薬支援を行っています。また、処方の変更や症状の変化などは、申し送りや記録を活用して情報を共有し、症状の変化のあった時は、医師との連携を図っています。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとり出来ることを把握し、生活の中で自然に活躍できる場面を作っています。また、おやつや飲み物など楽しめるように支援しています。カーテンの開閉、お盆拭き、洗濯物干し、洗濯物たたみ、洗濯物を居室にしまう、写経、新聞を読む、テレビを見るなど、利用者の喜びや張り合いとなる場面を作り、楽しみや気分転換などの支援を行っています。	書き初め、節分の豆まきゲーム、法人他施設と合同で行う納涼祭、スイカ割り、敬老会、クリスマス会、忘年会、誕生会、月1回のさざなみの会(紙芝居、クイズ、歌、手品、パネルシアター等)、季節の壁飾りづくり(折り紙、貼り絵)、七夕飾りづくり、花を生ける、広告紙でごみ箱づくり、雑巾を縫う、電子ピアノ演奏、そろばん、習字、写経、雑誌や新聞を読む、皇室アルバムを見る、テレビやDVD視聴、歌を歌う、ぬり絵、貼り絵、編み物、ラジオ体操、リハビリ体操、ボール体操、棒体操、卓球、玉入れ、風船バレー、キャッチボール、タオル体操、口の体操、トランプ、かるた、おはじき、お手玉、計算ドリル、漢字ドリル、ストロー分けゲーム、ジェンガ、早口言葉、言葉さがし、しりとり、クイズ、掃除(モップで床掃除、ハンドワイパーかけ)、カーテンの開閉、シーツ交換、洗濯物干し、洗濯たたみ、食事の準備や片づけ、月3回の昼食づくりや月1回のおやつづくりなど利用者の喜びや張り合いとなる場面を多く作り、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	<p>①日々の散歩や、ドライブなど戸外に出かける支援しています。家族の協力で自宅の教会への外出、自宅への外泊、法要の参加もしていただいています。また、近くの保育園の行事や地域の行事に出かけて交流しています。</p> <p>②季節の花を見に散歩に出たり、ドライブ（八幡宮、常盤公園、空港周辺）や買物、気分転換のため、外出支援をしています。今はコロナウイルス感染予防のため、一時中止しています。</p>	<p>琴崎八幡宮の初詣、お花見ドライブ(真締川の桜、空港の薔薇、市民館の薔薇、常盤公園、竜王山の桜、宋隣寺、ボランティアの参加を得ての江汐公園のツツジ、市民館や琴崎八幡宮のイチヨウ、市民館での鳩の餌やり、福祉会館の梅見の散策、神原公園での桜の花見、神原保育園訪問(こいのぼり運動会、七夕の会、夏祭り、運動会、発表会の総練習見学、お餅つきへの参加など)、ふれあいセンターのひな祭り、買い物(スーパーマーケット)、事業所周辺の散歩、家族の協力を得ての夕食、法事への参加、墓参り、一時帰宅、外泊、教会の日曜礼拝やなど、一人ひとりの希望に応じて戸外に出かけられるよう支援をしている。</p>	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<p>①自身で小遣いを管理されている方がおられます。手元にお金があることで、家族関係も円滑にいき、安心した生活ができています。</p> <p>②現金は全員、預かっています。家族、後見人の了解をいただき、必要な時には買物など、お金が使えるように支援しています。</p>		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<p>①家族からの電話には、ゆっくりと話しができるようにし、本人が希望されるときには職員が支援して電話をかけています。年賀状を職員と一緒に作成してご家族に送っています。</p> <p>②希望に応じてスタッフルームから電話をかけられるように支援しています。かかってきた電話もゆっくりと会話ができるように配慮しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は毎日掃除をし、気持ちよく使えるようにしています。また、照明・音・室温などに配慮しています。居間には利用者と一緒に作った作品を飾ったり、季節感のある花や作品を壁面に飾っています。	共用の広い空間には大きな机や椅子、ソファをゆったりと配置し、いろいろな人と話ができるように配慮している。広々としたガラス窓から公園の木々が展望でき、季節の花や壁面飾り、利用者の作品などで季節感を感じることができる。利用者が主体的な生活ができるよう、パズルなどのレクリエーション用具や雑誌などを自分で取り出せるように収納を工夫している。室内の温度や湿度、換気、整頓に配慮し、利用者が心地よく過ごせるようにしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	①ホールには2か所、廊下にも複数掛けのソファを置いて気の合ったグループや、時には一人で外の景色を眺めたり、音楽を聴いてゆっくりと過ごす環境を整えています。 ②ホールには数人掛けソファを置き、会話をしたり、ゆっくりくつろげる環境を作っています。ホール以外でも話が出来るように廊下の角にもソファを置いています。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたものを本人や家族に相談し、準備して頂き、居心地の良い居室にしています。使いやすいように模様替え等の支援をしています。ダンス、衣装ケース、椅子、テーブル、テレビ、時計、鏡、飾りなど、使い慣れた物で、居心地良く過ごせるように工夫しています。	テレビ、時計、椅子、電子ピアノ、ソファ、衣装ケース、鏡、くし、自然に関する図鑑、聖書、ルーペ等使い慣れたものや好みのものを持ち込み、ぬり絵などの自身の作品や家族写真、造花、ぬいぐるみ、カレンダーなどを飾って本人が居心地良く過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとりひとりの身体機能に合わせた歩行器やシルバーカー、車いす、センサーマットなどを取り入れていています。居室内の家具の配置や収納などは、利用者が作業しやすいように安全に生活出来るように環境整備をしています。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム オアシスことしば

作成日: 令和 2 年 9 月 30 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	全職員での自己評価への取り組み	全職員で自己評価を行い、良い点や課題を見つけ目標達成に向けて取り組む	1. 具体的な記述を心掛ける 2. 課題や目標について話し合う	1年
2	35	全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的な訓練の継続	内部研修の充実を図る	1. 必ず行うべき研修(接遇、身体拘束、虐待、応急手当など) 2. 研修計画を立て、実践を記録に残す	2年
3	36	地域との協力体制の構築に向けた取り組みの継続	地域との協力体制の継続を図る	1. 地域へ向けたPR活動の継続 2. 地域委員を増やしていく活動の継続	2年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。